

## あとがき

平成24年(2012年)秋、「すこやか」を含め、相模向陽館高校のそれまでの取り組みを知っていただくために、研究発表会を行いました。17都道府県から、学校関係者、教育行政関係者、「すこやか」を一緒に創りあげてきた日本選択理論心理学会の学会員や学校支援ボランティアの方々など、延べ約300人ものの方々においでいただきました。

そこで、「すこやか」の取り組みを実際に体験したり、生徒の様子を見ていただいたりする中で、このプログラムをぜひ提供してもらえないか、という声をたくさんいただきました。相模向陽館高校の生徒たちを主眼において開発してきたプログラムではありますが、これらはもっと多くの子どもたちにもきっと役に立つものになる、という思いもありましたので、大変うれしく、ありがたいお申し出でした。

すぐに提供できるものもありましたが、内容を整理する必要のあるものもありました。きちんとした形で世に送り出し、多くの子どもたちのために役立ててほしいという思いが募り、『月刊学校教育相談』での1年間の連載(2014年4月号～2015年3月号)を経て、本書『選択理論でアクティブラーニング—道徳・総合・学活で使える「人間関係づくり」ワークシート&指導案』の出版となりました。

相模向陽館高校で、「すこやか」を学んだ生徒の1人が、卒業に際して残してくれた言葉を、ここでご紹介します。

\*

入学してからの私は、何も目標がな

く、高校に行きたいという気持ちを持って入学しましたが、実際に始めてみると、その気持ちは薄れていました。しかし、「すこやか」での学びを通して、いろいろなことに気づかされました。

なかでも一番印象に残っているフレーズは「相手は変えられない。変えられるのは自分だけ」。相手を変えようとして刺激を与えても変えられません。自分から変わっていくことで相手との関係が良くなったりすることです。この言葉を聞いて、これまでの人生を思い返してみると、素直に受け入れることができました。

3年間の「すこやか」で少しずつ自分が変わっていったと感じます。2年次、3年次になり、欠席が減り、学校に行くことが多くなりました。行事やグループワークで多くの人とかかわる中で、友達がたくさん増えました。いろんな人と話していると、将来自分のやりたいことが少し見えてきました。そのために「休まず学校に行くこと」を目標にし、今日までがんばってきました。

今思うと、欠席していた日々も私には必要な時間だったと思えます。こんなふうに思えることが成長でもあると感じます。

\*

本書で取り上げた取り組みを、教育現場ではもちろん、多くの教育関係者や保護者の方々に広く知っていただき、活用していただくことができれば、私たち執筆者にとって望外の喜びです。

相模向陽館高校の生徒だけでなく、すべての学校種の多くの子どもたちが、自分の身近な人たちと良好な人間関係を築き、自分の人生を自分らしく、責任をもって生きていってほしいと願ってやみません。

小島淳子